

第4学年 人権教育関連学習の構想 10月～1月

1 主 題 はじめよう ボランティア

2 ねらい

目の不自由な人やボランティア活動をしている人の話を聞いたり、ブラインドウォーク等を友達とともに体験したりすることを通して、障害のある人の思いや生活に対する工夫や努力を知り、思いやりの気持ちをもって自分にできることを考え実践しようとする態度を養う。

3 主題設定の理由

[児童の実態]

第4学年の児童は、全体的に明るく活発で、様々なことに興味をもって取り組む。その反面、相手の立場に立って考えることが苦手な児童もあり、言動や行動で友達の心を傷付けてしまうこともある。また、交流学級の児童との交流はあるが、進んで交流できている児童は少ない。自分の行動を振り返り、自分の考えをしっかりとって、友達や周囲の人々、障害のある人等の立場に立って考えることのできる児童に育てていきたいと考えている。そして、交流学級の児童とも進んで交流し、一緒に遊んだり、活動したりできる人間関係を築いていきたい。

[研究主題とのかかわり]

本単元は、まず、国語科「手と心で読む」(光村図書：第4学年)の学習で、文字を失うことのつらさと点字を獲得することで得た喜び、人間の知恵と障害のある人の努力が困難を乗り越えてきたこと等を読み取っていく。その中で、点字で読み書きをしている人が、同じ社会で生活していることに気付き、目の不自由な人の生活や点字等について、自分なりに調べてみたい課題を設定し調べていく。そして、点字などを体験した上で、目の不自由な人のために何ができるかを考えて実践し、「自分にもできる」という気持ちをもつことで、ボランティアの心を育てていきたい。これらの活動が、「一人ひとりを大切にし、ともに支え合っている児童の育成」につながると考え、本主題を設定した。

4 人権教育関連構想図

学年	第4学年	中心となる教科・領域	総合的な学習の時間
単元	「はじめようボランティア」(実施時期：10月～1月)		
単元のねらい	目の不自由な人や点字や音声のボランティア活動をしている人の話を聞いたり、友達とともにアイマスク体験をしたりすることを通して、障害のある人の思いや生活に対する工夫や努力を知り、思いやりの気持ちをもって自分にできることを考えたり、実践したりしようとする態度を養う。		

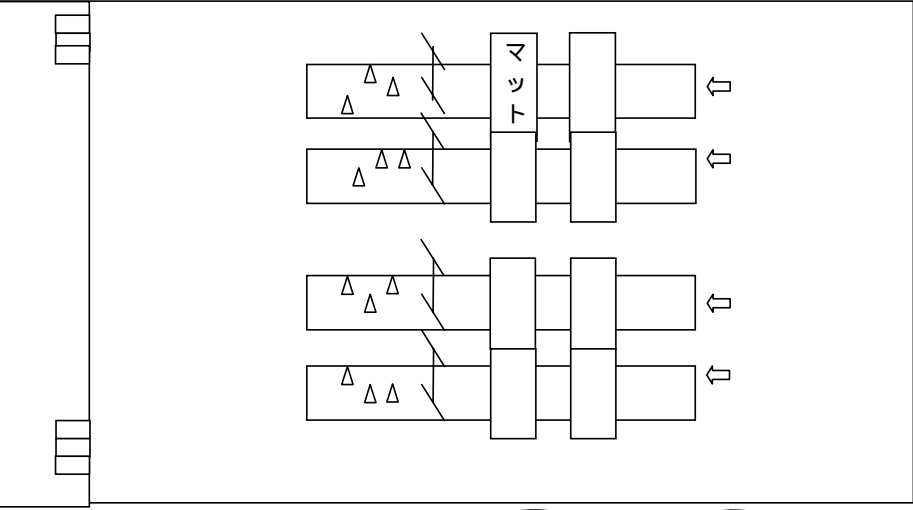
教科・領域	富山タイム 「はじめよう ボランティア」	児童の意識
国語：「手と心で読む」 既習の体験を話し合う。	<p>知る</p> <p>アイマスク体験をして、目の不自由なことを体験してみよう。(本時)</p> <p>点字ピンで点字を打ってみよう。</p> <p>点訳や音声のボランティアをしている人の話を聞こう。</p> <p>／</p> <p>目の不自由な人のために自分がどんなことができるか調べたり考えたりしよう。</p> <p>実践する</p> <p>点字の読み方や打ち方を調べたり、点字で伝えることができるように練習したりしよう。</p> <p>音読する時の工夫や努力などを調べて、音声CDをつくるための練習をしよう。</p> <p>／</p> <p>自分たちでつくった点字テープや音声CDをお店や公民館などにもって行き、役立ててもらおう。</p> <p>／</p> <p>目の不自由な人へのボランティア活動をして分かったことや思ったことを新聞などにまとめよう。</p> <p>／</p> <p>自分がやってみたボランティア活動を振り返ったり、みんなに紹介したりしよう。</p>	目が不自由な人のために点字があるんだ。
国語：「手と心で読む」 点字と出会う。		声をかけられたり、手を引いたりしてもらえると安心だ。
国語：「手と心で読む」 目の不自由な人たちの工夫や努力を知り、その願いや思いについて関心をもつ。		目が不自由な人の立場に立って考えよう。
道徳：「心の信号機」 2 - (2)親切困っている人や目の不自由な人に対する思いやりの気持ちをもち、様々な場面で実践しようとする心情を育てる。		自分にもできることを調べてみよう。
国語：「手と心で読む」 自分たちの実践を伝え合う会をする。		自分にもできた。役立ててもらえるといいな。喜んでくれるといいな。
道徳：「不思議なほくの気持ち」 「バリアフリーいっぱい町」 2 - (2)親切困っている人のことを思いやり、親切にしようとする態度を養う。		自分が勉強したことを分かりやすく整理しよう。
	他のグループの友達にも伝えよう。これからもできそうだな。やってみよう。	

学習を終えた子どもの姿

目が不自由な人のために活動すると、なんだか自分も役に立っている気がするな。やってよかった。



これなら自分にもできそうだな。他のボランティア活動もしてみたいな。

目標	アイマスク歩行を体験することにより，目の不自由な人がどんなことに困ったり，どんなことを思ったりしているのかを感じ取ることができる。	
学習活動	児童の意識	教師の支援等
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>2 アイマスク体験をして，感想を発表する。</p> <p>4 本時の学習を振り返り，これから調べてみたいことについて発表する。</p>	<p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>目の不自由な人の気持ちを考えよう。</p> </div> <p>場づくり（体育館）</p>  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;"> <p>目が不自由だと怖い。大変だ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;"> <p>まっすぐ歩いたり，早く歩いたりできない。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;"> <p>ほんの少しの段差が危ない。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;"> <p>障害物があると歩きにくい。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;"> <p>何とか力になりたいなあ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;"> <p>声をかけてもらえると歩きやすい。リードしてもらえると安心だ。</p> </div> </div>	<p>教師の支援等</p> <p>前時の学習を振り返り，本時のめあて「目の不自由な人の気持ちを考えよう。」をつかむことができるようにする。歩くコースを準備しておき，どの児童も十分な体験ができるようにする。</p> <p>アイマスクをつけることで危険が伴うことが予想されるので，急がない，ふざけない等の注意点を児童に考えさせ，けががないようにする。</p> <p>次のような3通りの歩き方を体験させることで，違いを感じ取ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目・・・アイマスクをつけて一人で歩く。 ・ 2回目・・・自分たちで介助の方法を考え，二人組の一人にリードしてもらいながら歩く。 ・ 3回目・・・正しい介助の仕方では，二人組の一人にリードしてもらいながら歩く。 <p>一度見たものは記憶として残るので，後半の児童が歩く前にコース設定を少し変えるようにして，目の不自由な人の体験に近づけるようにする。</p> <p>ワークシートを用意し，歩いて帰った後に，感じたことを書き残して前の活動と比較しやすいようにする。</p> <p>T1以外の教師は，それぞれのコースに立って児童の安全に留意できるようにする。</p> <p>交流学級の担任は，F児のコースでF児にすぐに対応できるようにする。</p> <p>それぞれの歩き方をした後に感じたことを全員で振り返る場面を設け，歩きにくさの違いを押しえたり，目の不自由な人の気持ちを考えたりする。</p> <p>3回目の後には，3回目の介助の仕方がよい理由を，目の不自由な人の立場に立って考えることができるようにする。</p> <p>今日の学習を振り返って，目の不自由な人の生活に対する工夫・努力や自分にできそうなこと等，自分なりに調べていきたいことについて発表できるようにする。</p>